



龍
諸
新
武
成



切字説

コレ
 是と切字と名づくる者其の一字者あり反切の
 二字ハ^チ反^{チウ}音^チ韻^チ展^チ轉^チ相^チ協^チと
 及^チと^チ反^チ音^チ平^チ声^チあ^チ字^チ相^チ摩^チと^チ聲^チ韻^チと^チする
 これと切^チと^チ反^チ音^チ平^チ声^チあ^チ字^チ相^チ摩^チと^チ聲^チ韻^チと^チする
 五七五ノ音句展轉^チと^チ句^チと^チあり或^チハ自^チ同^チ自^チ答^チ
 と終^チす終^チ句^チ而^チり^チい^チハ^チ恠^チと^チ或^チハ自^チ同^チ自^チ答^チ
 あ^チる^チハ他^チふ^チ回^チ他^チよ^チあ^チる^チ浮^チを^チ海^チ水^チよ^チひ^チく
 表^チ一^チゆ^チく^チ身^チの^チや^チと^チ終^チす^チ月^チ砧^チ烟^チ節^チに^チ所^チ一^チ
 くる^チ郷^チん^チと^チ終^チす^チひ^チの^チ歎^チと^チれ^チる^チ是^チ見^チ國^チの^チ二^チ



川を起るの情を句中に表はせしむる
はよく見えて感ぜしむる不測の妙
も則ち素情なる端を無く章句の
人々も亦一ひひ字眼を一字に
二三字のあつては是れ切字といひ切割ち
しとて原なるに如く切物苟取整無不顧也
経歴を著し書に記しにふに思ふ
又七の句に如く切字といふは
は一句と別部一懸解なるは他の句と
一一ひひとて古尊の定と述はる

長遠屈曲を状して井幹の層櫓とす
龍楹楠櫓乃其妙なるに如く切字の
述はる十六摩多乃悉畢なり諸字大
莊嚴の切とて一十二点畫楷書に母と
なり切字と誹諧なり句莊嚴なり
あり又後世の如く宋世之詩以為樂歌所以
通情也凡切をあらはせしむる不授なりとせ
る一とて切とて去声なり一とて取と
なり一とて取とて此乃詩と導ふ句中孫
字の流あり又財語を武めしむる兩字相

セ イック け ケナ 一 ケナ 句 ケナ 乃 ケナ 下 ケナ 知 ケナ 法眼 宗鑑

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

い ケル け ケル 切 ケル カチ 花 タイ 對 カチ 續 カチ 子 カチ 維舟

字と一字と一と句

ふちかゝるなりなせん花ひる

一句めく

中くはるまゝは月の香

愛句ふハ神祇

ホツク 愛句ふハ神祇 小ハ二字とあるうみふふと訓あり

唯一宗源十八分と神祇の成神祇の成る

神のふた付くといひぬるをさく神祇といふ

佐原のわくすましくなれとえまふふふのさるまゝにさうこ

事世ふふふとふふふ機とふふふ救ふの法さるふふふ

ふふふとふふふ 戀 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 恋 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

迷憶 ねえいとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

世の中をつふふふといふふふふふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

ふふふのふとふふ 憶 中ハ連歌といふふふふふふふふふ

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

种



3

うき

危塚

三

方

ウ

永
口

卷五

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor creases and discoloration, characteristic of old paper. There is no text or other markings on the page.

1

生

ア
ニ
フ

五

十を

成 カイ

三

75

心

27

目目 二 系 少 系 有

長傷 患

ナカキワカレ 患 涙 力 十 失 繁 切

長別 服の内 哀 小 龍 迷 云 自 誓 終

至常 死 人

ナキヒト 力 死 人 棺 人 死 人

紀念 多 過 死 人 乃 烟 死 人

三 途 苦 泉 自 骨 屍 古 塚 軍 途 人 魂

人 備 沈 死

ツハモノ 良 等 夢 志 仗 志 醫 師 僧 山 伏

人 婦 小 女 子 友 友 竊 伴 候 兵 皇 女 門 跡 家 帝 宮 親 王 女 院 女 院 仙 洞 新 院 亭

公人入通山姫人長老一ツ一家
 六款子以難式給仕曲茶下戸寄属
 組師橋姫家君布衣外科二人
 俗大智人形百姓明鏡大工伽羅木
 新耳瘰育代官月と友花と友酒癖
 所屋同付付増依保姫新田姫
 私一族新共九丈虎生地以
 在る入通神楽目待明星七夕夏霊
 象更指毒骨園眼映人極色味
 月弦月入明方有の所暗
 東毛相角

新燈籠漁火花火露更床踊又
 夜新狐致意鶴別の多能
 片炭果曉を二食あり踊
 短髪三火外配袈裟持無
 規増有無幾大文字灯照射人
 圓花灯天啓星唱衣像網代
 非在る通の分撞家を暖暑衣
 芦火泊有と待月夕月夜火
 床山伏一長酒神電明果
 泊舟朝朝今有の月映澄
 伊人長老一ツ一家

膠ワキふ五ナヒ乃習アヒタイあり一ふえ相對ウチソ二ふえお深ナリえり

いづく
遠付チカヒツケ四ふえろ
近付五ふえコはとまり之字紙ソウキ

法師ホフシの云いふはるりききやうちあらわるまへん

い
ま^{イヒ}くも
能^{ヨカ}く
さ^ク句も
有^{アル}く
愛^{ホツク}句の
そく

月ツキを以てして月アルに付くはうろーと云ふ

サニルイ スイ (ニ
シカ
サリナカラ ミツ

いふゆゑと云^シふ又^カふ^セふ^クとの末^スハ山^ス歌^スと云^ルふ

いふとてふめと誂諧みわくをさうと

まゐりうさむ
紹巴セウハ法眼ハフケンのいそ愛句ふりい

そのく一簾カトさやふ賓ヒンのあふひまー白シユ

くも長高く何かくも文字やく道一ふふ終

系ハ々ナラヒとみくぬるる
習ナラヒ々人ナラヒにまゐるなり

や後乃親と云々
イナ
セツ
ミヤウ
 物と云々

ウチソ
ユキ
カス
ユラヘ
宗祇

打浮
 水ユウ
 水ミツ
 子コ
 子シ
 梅ウメ
 子コ
 子シ
 子コ
 子シ
 宵柏

ナ
コエ

名
声
不
と
ふ
は
と
い
や
る
は

桑付
 卯ウ
 のハナ花ハナ
 や
 垣カキ
 垣カキや
 卯ウのハナ花ハナ

チカヒツケ
ミヤコ
ハルカスミ

清
付
うた
山の花乃
うた

チカヒツケ
透付

ヨロトニリ
以留

梅^{ウメ}さね^{サネ}ね^ネと山^{ヤマ}雲^{クモ}とあ^アつ^ツつ

こ^コの^ノ海^{ウミ}乃^ナ花^{ハナ}れ^レ人^{ヒト}さ^サふ^フは

そ^ソの^ノ海^{ウミ}と能^{スカタ}く^{ヨク}晚^{クシ}味^ミく^ク服^{ワキ}の^ノ新^{テイ}とさ^サう^ウ知^チ

ら^ラふ^フれ^レま^マさ^サあ^アひ^ヒあ^アる^ル服^{ワキ}ハ

成^フ列^{シウ}川^カ城^シ千^{セン}白^ク才^セ四^シの^ノ老^ロを^ヲり

れ^レも^モけ^ケを^ヲく^ク月^{ツキ}ハ^ハ夜^ヨと^ト永^{カスミ}海^ミ

才^{タイ}三^{セン}乃^{ノウ}仕^シ屋^ウ

音^{ユキ}ハ^ハあ^アさ^サさ^サふ^フ山^{ヤマ}乃^ノ燈^{トウ}を^ヲれ^レ一^{イチ}宗^{ソウ}長^{チヤウ}

植^ホり^リせ^セれ^レ腐^スく^クと^ト海^{カイ}人^{ニン}曰^{イハレ}

一^{イチ}の^ノ燈^{トウ}山^{ヤマ}と^ト夜^ヨと^ト永^{カスミ}海^ミと^ト宗^{ソウ}長^{チヤウ}

とい^{トイ}い^イ乃^{ノウ}仕^シ屋^ウの^ノ才^{サイ}三^{サン}乃^{ノウ}仕^シ屋^ウと^ト永^{カスミ}海^ミ

才^{サイ}三^{サン}乃^{ノウ}仕^シ屋^ウ

才^{サイ}三^{サン}乃^{ノウ}仕^シ屋^ウと^ト永^{カスミ}海^ミと^ト宗^{ソウ}長^{チヤウ}

大^{ダイ}乃^{ノウ}仕^シ屋^ウと^ト永^{カスミ}海^ミと^ト宗^{ソウ}長^{チヤウ}

と^ト永^{カスミ}海^ミと^ト宗^{ソウ}長^{チヤウ}

物^{モノ}と^ト永^{カスミ}海^ミと^ト宗^{ソウ}長^{チヤウ}

才^{サイ}三^{サン}乃^{ノウ}仕^シ屋^ウと^ト永^{カスミ}海^ミと^ト宗^{ソウ}長^{チヤウ}

才^{サイ}三^{サン}乃^{ノウ}仕^シ屋^ウと^ト永^{カスミ}海^ミと^ト宗^{ソウ}長^{チヤウ}

の^ノ才^{サイ}三^{サン}乃^{ノウ}仕^シ屋^ウと^ト永^{カスミ}海^ミと^ト宗^{ソウ}長^{チヤウ}

ウメソノ
梅窓に
クサキ
草花
ニホ
な
ハル
カセ
乃
ウケヒス
ユ
ト
ヤニ
カケ
雪の
外
山
中
陰
々
々
宗義

蝶々^{テフ}やらるゝとふとすれ^{ハナ}花を^ナひ
 い^{ユキ}ろ^ナろ^{タ子}ん^ヤ菜^{フキ}花^{フキ}欽^{フキ}冬
 ち^ルとの^{ツ子}ろ^{サイコウ}ろ^{サイコウ}とま^{サイコウ}あ^{サイコウ}ろ^{サイコウ}
 と^チ称^チ字^チ

ちうめいめい^{ツキ}月の長閑^{ノトカ}と
 ちうめいめい^{イクツラカリ}の別^{ワカ}とん
 昌叱

中々毛をさうく強き海月
 不毛をさうく強き海月
 不毛をさうく強き海月

おやう此のういやく余のうへ人あへ一石かん
ホカ ナラ
およあひあふいふお 小あく 字あは
あへんや又作作う人普通おいせおううたへ

白作乃言あ 小あはふいふ

クツクリ ヨシアヒ タイ
白作乃言あはるすすてふといふと揺とよくく知
アキモ ミセウ ウタ
ハヤハ妙にふとんしうとんゆうすけた乃玉
カニケシ カンノウ ミミ、
かりあふいふ強の強と耳とといふ名あな
おへんあふいふとんをちうぬ人あ
クニケシ
このふ強強の耳おあふいふとん一他強強

とせん此のういやく余のうへ人あへ一石かん
アキモ ミセウ ウタ
ハヤハ妙にふとんしうとんゆうすけた乃玉
カニケシ カンノウ ミミ、
かりあふいふ強の強と耳とといふ名あな
おへんあふいふとんをちうぬ人あ
クニケシ
このふ強強の耳おあふいふとん一他強強

中におくつてく

あてふはしらかな ウタ

を流くかり コカ 流れ乃 ヲ 夕 タ 夕 タ

うれとしく ツテ 社の ナミタ 辰 ヒ 目 ツテ ふ ツテ さい ツテ

是 コレ あ ウタ く コハ 細 ツテ と ツテ う ツテ け ツテ と ツテ 目 ツテ ふ ツテ さい ツテ と ツテ う ツテ

かり ウタ 移 ウタ と ウタ 文 ウタ 々 ウタ かな ウタ ま ウタ い ウタ

あり ミミ ぐ ミミ 家 ミミ の ミミ お ミミ 婆 ミミ 乃 ミミ 目 ミミ お ミミ さい ミミ ひ ミミ く ミミ を ミミ 流 ミミ く ミミ 辰 ミミ 乃 ミミ 目 ミミ ふ ミミ さい ミミ と ミミ う ミミ

さ ミミ じ ミミ と ミミ ま ミミ い ミミ ら ミミ あ ミミ く ミミ け ミミ さい ミミ い ミミ

あ フウ ん フウ 丈 フウ 婦 フウ の フウ 中 フウ 乃 フウ 目 フウ ふ フウ さい フウ ん フウ 辰 フウ 乃 フウ 目 フウ ふ フウ さい フウ と フウ う フウ

い ミシ 家 ミシ の ミシ 移 ミシ 在 ミシ かな ミシ け ミシ さい ミシ 辰 ミシ の ミシ 声 ミシ

是 コレ さい コレ 結 コレ 乃 コレ あ コレ の コレ の コレ さい コレ け コレ さい コレ ん コレ あ コレ ん コレ 辰 コレ 乃 コレ 目 コレ ふ コレ さい コレ と コレ う コレ

の ナリ さい ナリ の ナリ さい ナリ け ナリ さい ナリ 辰 ナリ 乃 ナリ 目 ナリ ふ ナリ さい ナリ と ナリ う ナリ

ん コハ さい コハ の コハ け コハ さい コハ 辰 コハ 乃 コハ 目 コハ ふ コハ さい コハ と コハ う コハ

さい ミヤ け ミヤ の ミヤ 辰 ミヤ 乃 ミヤ 目 ミヤ ふ ミヤ さい ミヤ と ミヤ う ミヤ

ら ム さい ム の ム 辰 ム 乃 ム 目 ム ふ ム さい ム と ム う ム

ら モ さい モ の モ 辰 モ 乃 モ 目 モ ふ モ さい モ と モ う モ

け ナリ 乃 ナリ と ナリ 辰 ナリ 乃 ナリ 目 ナリ ふ ナリ さい ナリ と ナリ う ナリ

さい ケイ 乃 ケイ 辰 ケイ 乃 ケイ 目 ケイ ふ ケイ さい ケイ と ケイ う ケイ

け フキ 乃 フキ 辰 フキ 乃 フキ 目 フキ ふ フキ さい フキ と フキ う フキ

借りうけてふん おまひりおまふん

おふも又うねる元のありまふ

いふのふ乃あふふふ

そに ウチ あふふいふあふけく洞とつて和ふ

まてふハ

ほくハうねー カミ 髪ふうう

念ふしこふてふふも封一又

これいふふふくふいひふく自あり

物 モノ 借乃 カタリ うとれ

世 ヨ れらうり地 チ ふく結 サハ とふれん

ぬけに髪乃もれふの月

是 コレ ハ伊勢 イセ のかうにぬかふふふいふは人のあふ

井 井 のをふいふ アツ けいふをふにぬかふれいふ

おふ オウ ちうふく チ ありふれいふ チ ことこのおとくをふ

とおふ オウ ちうふく チ のれふ チ とおひつおふ チ 乃あふ チ こと

さう サウ ちうふく チ ありふ チ と チ 一 チ 番 チ の チ こと チ ぬ チ こと

物 モノ づりの洞 コト とれ

清士 エシ 乃あふ チ 火 ヒ 乃 チ ちう チ こと

な ナ こと チ ちう チ こと チ ちう チ こと チ ちう チ こと

是 コレ ハ チ ちう チ こと チ ちう チ こと チ ちう チ こと チ ちう チ こと

[illegible]

欽此

信田子江屋本

延平先生家藏

1871

For the above

張の洞と云ふ

元々此の文は、^井文^井家^家の文である。

Sand was (or ^{not}) moved around

Handwritten: ...

John M. Smith - 1850 - 1855

敬啟者

物類記

2000-10-10

の太呂 節のあつて 支威の 祖の 渡の にか

授以乃吾子也

小 踐 神 ^ニ の 有 ^リ 一 張 本 石 一 冊 あり

五七三
蘭山と云ふは、
上口
に井
井
カハシ

此石也。此石。東園云。字。夏。廣公。角。室。人。

[illegible]

けふつねあまのこゝろとさのこゝろとていふこと
をわきまにせよ

[illegible]

稻葉

伊勢の井

今

崇

い
あ

家

家法

而之

晚

得下

字の内におとこふ

いそは 新紙へ
まきり
お家目 新紙へ
あしは
糸子 新紙へ
いそは

いふ
うゝこと
うゝこと
うゝこと
うゝこと
うゝこと
うゝこと
うゝこと
うゝこと
うゝこと

ろ 櫓 居て今一と
強 小 庭と
新 ぬきうとあらう居
て新志とや

論
一、論、義、ハ、内、なる、一、也、を、二、也、
論、義、ハ、内、なる、一、也、を、二、也、
六、
備、あり

のりものゝ死同き之六親人候はれり此六親同
ともなくまゐる人の六は親をまゐるなりと云ふ
録
字義録に於て
おのの録三白を

録青
といふことなり
いとふことなり
増
録紅
いふことなり
いとふことなり

衣キきり
寄キせらキし
寄キいあキさキけキらキとキ達キ之
古コ地チ落ラク集シユ
北キ何ナニあり

魚梅
いふくしをちとしく
ふ月の季にちとく
炒
ちくく十月
あきく二月
櫻
ふむあきるあ

西と援厝も
 とうとう
 上野の
 三交
 二
 子
 三
 四

は 檢
秋と二つをとり能く片づける。又、
おまゝの文字おのゝちうへ後のゐるが如
春入る
のちうへ

ハルサメ
ふる
この字ニウの如く
けろりとさうふ
ハルサキ
まを
久くと細とてとも
そのさもとをえたり
ハル

凡
二つ春の風おと
久く云と云
ハ
上白下白
春の月
三つ

二日月一ツらうととるゑんたのとうをふひのとう
 交を同ふ秋の月ハ分うゑりくもせうてうてん
 春ハルとまハル云ハル
 九句

花ハナ 写カキ 花ハナ 小撮サクラ
七句を又かくしうへうへに奥書祝ひよくあや
の正花さうめくみ教ひのむくしを著し福小花の

其うゝはとまに焼ふいとくさうふ花を焚くやねまふ
 うゝのさううつまにまんとま白に灰もつ花とけちわり
 花ハナ ヒメ ミナ ミナ ミナ

花乃す クモ
花の淵 分々

三句山をいふとむすこふとあれ
花ちりあふまゝのうやなり

花
花
花

三句五ふ
三句五ふ

花
花
花

の書
花とひとふ
聖とととと
いひとも縁ふ

以多といふといふ字より一なるも種あり
 多し種ありと云ふと云ふ種ありと云ふ
 花

西八分のちいせぬより又紀州のえん下のうちくもろし
うにそれと物成あてあういつはくはさるもあき
花分 とちう
アモ

ちねふ
まのあふとよふまうに月ひ
月ひのあふまうとよふまう
花の香吹
まうとよふ
まうとよふ

花乃却
西君よりうたへし声にふし花はあまの国を
なり推しは二句の同くありて花のよきこと

[illegible]

花の海
西花之なるうにおふ二句さる
 花の如く人備へ花と何れと

[illegible]

花乃醒ハナノサメ 花の腰子ハナノウシロ

花鏡
ハナリコ
正花之入
如く老之

花鑑
ハナカタミ
同
外

血サラ 五臓之血をいふ
 已敷之血をいふ
 花野 五臓をいふ
 花田 五臓をいふ
 花園 五臓をいふ

なりけり云々云々の字を云々云々云々のと云ふ

宇治の急不六山の在の名をいふ花よりうきうき
ハナイクサガ
 兄軍 花より
ハナクサガ
 花より

力
香 社の香をくろ香
ハナ 赤ヒ
花の白 とらるに社の香

あり傍れのちと花ひとも
花より芳野

子の如く
人倫あり
花田
餅花

冬より人
お小二百五
花嫁花婿
冬より人
お小二百五
花

り
 中をわくは
 いふ紙
 ハナイルハナカ
 あつて花のうしろに

二白玄
ツホ
花皮
ハナウソホ
花入
ハナウソホ
花五

中とありんすなるありん
子ヤ
父カ
子イカタ

[illegible]

ハモミヤノアノアノ
字より二白まき
みさふかの二白まきその字の
字すの字すの字ふこれに二白ま

溪 二白まき二つ其の相か
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

羽の字 二つある相お
に二白おの字のる而と相ふへ
おねおとの生る

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

和 二つある相お
いふまきいふまき二にあり
二白ありおとまきと

袴ハカマ

この袴をきくは

法師ハツシ

はきくは

拂ハク

針ハリ

その針をきくは

蛤貝カキ

その貝をきくは

生乳ナマ

に

この生乳をきくは

座イハ

この座をきくは

座火イハヒ

この座火をきくは

座乃イハノ

築山ツキヤマ

この築山をきくは

法ハツ

この法をきくは

靴カブ

この靴をきくは

座イハ

この座をきくは

座乃イハノ

靴カブ

この靴をきくは

座イハ

この座をきくは

座乃イハノ

靴カブ

この靴をきくは

座イハ

この座をきくは

座乃イハノ

靴カブ

この靴をきくは

座イハ

この座をきくは

座乃イハノ

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

小の満コノミツ

この満をきくは

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. Several large, bold characters are interspersed throughout the script, possibly serving as section markers or titles. The paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing the document from the previous page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. Several large, bold characters are interspersed throughout the script, possibly serving as section markers or titles. The paper shows signs of age and wear.

圖方と竹の中白
体ふうて無
トリ
カニ
海

年トシ木キ之ノ所

まゐる
とろろ火のたき

色あてー
 このうき
 本^{トクサ}賊^{サカ}に
 木の字
 殿^{トシ}

寫る所のつとめと世の内又二
人あとなと声にうまう又

年以
古
之
人
今

とく^{チリ} 三つ 名お二つ 歩ふ二つ
多かよのらふもしは内

塵
云、此二の世を
人々声

子繁彼

子墨子曰
居不非

山崎 子千
新井 文の屋敷

地より穴とくも路の
へりぬくは用捨なり
術チク

茅の字

茶

珠しきさくちやうりつて
思とえうふふふふあり

千井

すなわち、
ちまねえーらつ
先き

ちや新ちや
のうた、い
エリ

七、
 子サ
 子サ
 子サ

子計あり 一六六

二百五の字に二五

和合

おとうのふの煮のや
かきと厚皮おとうに

男力帝苑
一十二日の内

[illegible]

傾フタとフタと
 二乃内々
 女フナわうフナわう
 めとらひてフナとフナ
 め

上
 月ヒ
 一つふと月と又一つ
 名ふよふと七只二之
 思ヲカ
 只二つ
 名ふ一

小野 呂ニウ密オヤウ
おとく魚ー
幸 ヲ十
ニウとち
ニウとち

ととと

高羽川 高羽川の源流の名所
ヨトハカ ヨトナレ タキ ヲウ マイヨ
のろふ 高羽川
さふ 高羽川

とを極

三白をいふといふ二白を
といふ付をといふといふ

竹の子やうみとけと

子之迷懷

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

字已
生乳

増
女ヲチふ
いそくと

お

今

の

あまのうみ　あまの

族家

卷之四

[illegible]

年
二
 然
二
 小
二
 挽

卷之五

杜可

二、私を正義の道を用やうと
 大の内二つは其と其のまゝとおと

名ありやうの

子牙

とむろううし
スワ
めらうが

乃^ハ信^シ
 乃^ハ信^シ
 乃^ハ信^シ

厚^{カリ}ふ
ちとうむ
ひるもはる

三子

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor creases and discoloration, characteristic of old paper. The left edge of the page is bound, and the overall tone is a warm, off-white or light beige.

三

二五五

二五

のつゝ

2 7
2 3

孝子
董品

以
 力

のふと四

子思子

六つありと云あり今係ふと云ふ事なり
しるし扇の者としき扇をわさうあるは
カ費 バツ ア

衣類のこひ
のききあり
か
ふ

錫報 かろく
おきふ
ふけ

13-10-1881

美のときふかくねとくさうりる國親之
古今集二巻のつづく毎ふ原の最又五十七

代ヨ
 和代ワヨ
 和代ワヨ

一と云ふは、代々をいふ

世 呂ニツ述懐ふニツ依の世ニツ多子ニツうれせとん
ハ述懐廿九世の人イ事世と云ふ世屋世ハム世界あり

世ヨ 新々迷懐 世ヨ 人ヒト 世

字はつのおんうきう世のうき世とてうき世のうき世も人も二重うき世
世のうき世とてうき世のうき世とてうき世のうき世とてうき世のうき世とて

未^ヨ
未^ヨ

ヨモギ
フ
マト
蓬萊の宿
うね

七千
 七千
 七千

有ヨヒ
物あり其の字
に二白あり

おのころ

より病を乞ふ
山を乞ふ
花のあ

費々々々々々
小々々々々々
費ヨ
の
ア

三番々人よかろの例ふ又つふとつた
ねまふとつた二番ありふまふとつた二番
りねまふとつた

長きあり 長のあけ
 二一あひく ちのこ

そ
ふとてふんとふと

下知二台寺
せうかんふく

世よりいふにこそ
力もて建康に
歟

よきふ

米ヨ子
一斗と文三小
二斗と文三小

私云貞任主候の事方その中よりある事や又山部
の折羽は此よりとく候ふ事とありとていふ候

[illegible]

乃

金をぬくのは又つ他し

金や銀玉の類
玉の

ハナ
石キナミダ
氣の腫液乃

澤川
 澤川

實乃珠之

あつた玉の涙の玉
元雪のむなしくも
寝る

まゝに
うりてつとふあり

[illegible]

五十一

小三葉ありは葉のあり
回カの房イホ 二つと秋の葉のあり 門カト回タ 居イる 田タ

乃ナ字チ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

回タ とう種タうなるこしねがー 回タ 二葉のあり又うりともちやうと

Handwritten text in Chinese characters, likely a diary or journal entry, covering the top half of the page. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols.

Handwritten text in Chinese characters, continuing the entry from the top page, covering the bottom half of the page. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It includes various characters and symbols, possibly representing a list or a narrative. A circular seal is visible on the right side of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It includes various characters and symbols, possibly representing a list or a narrative. A circular seal is visible on the right side of the page.

卷之八

了しに二百一を
あさうの凡
ウタ
こものえ打うて
乃をと撫なす中をけのを
ウチカ

船の所もふ援
 台
 旭句ゆうて西を援
 宇治の川

Handwritten text in Chinese characters, organized into columns. The text includes various characters and some larger, bolded characters, possibly representing a list or a specific section of a document. The characters are written in a cursive style.

Handwritten text in Chinese characters, organized into columns. The text includes various characters and some larger, bolded characters, possibly representing a list or a specific section of a document. The characters are written in a cursive style.

海東之玉の名を
 名をよむを三句は
 呉竹の子え
 うおひ二句をよむに
 をく竹ふみちうなり

寓 ヤトリ
 多量のやとうい富を白玄やとうに折るゝ
 多量のやとうい富を白玄やとうに折るゝ

不況に就かずといふ者
 山^ヤ里^{サト}
 某の戸某乃唐
 山^ヤ
 々々々々々々々々々々

1

楓の松風のうきと
只ても一産するに

雪風の味

きりうお

松風の

あまの白かり

松の

松乃

松乃

松乃

雪かき

松の

松乃

松乃

松乃

雪け

松の

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

松の

松乃

松乃

松乃

松乃

町 チ 居あふ **町** チ 居あふ **鞠** キウ 二つと二つ **待** ハツ内二つ **増**

まろふに 二つと二つ **お人** 二つと二つ **又** 二つと二つ **お人** 二つと二つ

るこ **九** 又二つと二つ **学** 二つと二つ **る** 二つと二つ

け 二つと二つ **く** 二つと二つ **ふ** 二つと二つ **今** 二つと二つ

朝 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

あ 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ **あ** 二つと二つ

煙 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

痛 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

有 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

久 二つと二つ **二** 二つと二つ **け** 二つと二つ **り** 二つと二つ

と 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

の 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

ま 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

面 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

あ 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ **あ** 二つと二つ

ふ 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

あ 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ **あ** 二つと二つ

あ 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ **あ** 二つと二つ

の 二つと二つ **あ** 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ

あ 二つと二つ **乃** 二つと二つ **今** 二つと二つ **あ** 二つと二つ

卷八

[illegible][illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines, with some sections enclosed in circular or oval frames. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect. There are several large, stylized characters or symbols interspersed within the text, possibly serving as section markers or decorative elements. The overall appearance is that of a personal or official record from a past era.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record from the previous page. The text is arranged in several lines, with some sections enclosed in circular or oval frames. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect. There are several large, stylized characters or symbols interspersed within the text, possibly serving as section markers or decorative elements. The overall appearance is that of a personal or official record from a past era.

中
持
子

あ りふ
うぬ中 ぬ天ぞし声に さあ
いふふいとこおをさうせむ いひくく又うきふ
とわさうむむ あや 出つ但二つもさーぬとあま 松凡
さあさへうん 面とさうふあああまたさあせうき
のぬ^{アメ} 本まふのぬ川若のぬ海のぬわうち但上三つのぬ似せお
のぬくる七の外今二つさーしうり押は二るぬとおみに

[illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is dense and flowing, with many characters and some larger, more prominent characters that may serve as section markers or headings. The text is arranged in several lines, with some lines being longer than others. The overall appearance is that of a well-used, possibly official, document from a past era.

Handwritten text in a cursive script, continuing the document from the top page. The script is consistent with the one on the top page, showing a high level of fluency and skill in the writing. The text is arranged in several lines, with some lines being longer than others. The overall appearance is that of a well-used, possibly official, document from a past era.

つゝ茅の穂ちまらちや 秋の字の字あり **あさくや** 秋の字の字あり **海士** 秋の字の字あり

小舟泊瀬 秋の字にけくあるふ **あひま旋** 秋の字にけくあるふ **江** 秋の字にけくあるふ

てゐる風も世と世と **あてか** 秋の字にけくあるふ **月** 秋の字にけくあるふ

しはまをたれ身に **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

あ 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

月とおあり秋あり **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

らゝはのど **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

玉川の連 **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

近江の海 **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

の葉 **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

ありさ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

あり **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

あり **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

あり **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

あり **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

あり **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

あり **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

あり **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ **あ** 秋の字にけくあるふ

一七 櫻 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

うろその字 **世と縁** 七の字とくも同じ和をさうくハの字に二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

竹の字とくも **さ** 志の字とくも竹の字とくも二の字とくも

そ 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

樂 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

依保姫の衣 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

さや 世は二の字とくも竹の字とくも二の字とくも

子之

さ
か

里
サノ
ノ
ノ
ノ

10

生於...

とうゆーきのゆくおとそく一え
さへうにさのふふしとともい内と

今一ツ五一板

後乃白に志の字は教給ふなりとて

折るにうゝん衣の字に二句を急の
 ちうにうゝん別進に二句
 キス

あゝ花のさぬくお萩ふにあらうい

写の趣い人とて
て後にあつて

人倫あり木の
字に二白をく

[illegible]

キヨミテラ

さふえう

子らるゝ地こ

いふと云く但さうなりきり名何に云す
只一つなりと申しとてみくらひするは野狐キコ

川竹もふ葉 升

菊キク

如天其心也
子乃為之

二つ
 うのい

ふちうさといふ

キニ
ル
よ
に
一
二

益所
 とも白
 キ
 フニ
 エ
 ヤ
 ハ

キニ

15. 15. 15.

二の四ありタムれ
とてふとてふ

の二を君の字も志の字もうへに
又伊賀之京は同一んぬれ九二百の外く

夕ユフ々ツツ狹

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor creases and discoloration, characteristic of old paper. The right edge of the page shows the binding of the book, which appears to be made of a dark material. There is no text or other markings on the page.

二つタアとえうおほまゝで
えい白なり せうと声にせうなり

夕ユウに
秋去

今うねと娘はハタの字八つの内よ

百子るに 夕ふに 我と付
ておろ

白玄海乃あり同く
夕海乃の月乃るも夕の字を

子月乃外著月
 親をれり
 若くは
 夕ヲ
 夕ヲ
 夕ヲ

あるとあるアの勢ふふさうなつてよの
ついでにひの器とあるに外にうへへ

ゆき
山
名ありて
タアの都と云

夕親
まゝの字に
夕の外に
まゝ

ゆふふ ユフ 夕陽にほたるの光の如く ユフ 夕陽の

有 ヤト 人の如く居る ユフ 夕陽の ユフ 夕陽の

西郷 ユフ 西郷の ユフ 西郷の

く ユフ く ユフ く

セツ ユフ セツ ユフ セツ

又 ユフ 又 ユフ 又

七 ユフ 七 ユフ 七

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ち ユフ ち ユフ ち

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

ふ ユフ ふ ユフ ふ

石兆弘進母字良年爲須孔柳遊布麻亞美
ゆゑに
二
美

一つと衣田御と
 ゆく
 一つと衣田御と
 ゆく



名神

藝同の作作の
 名をよめとて又社とう神垣とて此をわすの御所
 へとていふと

すゝいをわさぐしにやうな
あまの字おれと山歌あき方か
メイゴ
和布
と列にえめ列れるるる
カス力
も同色付くふ家
メイホウ

名所とく
二白
名所の春回
名所の文字に二白を

名を以て括るゝと曰ふ一ツ本のちひなはるゝ

ちて雪にまじりて人の心をなやましむるのまじりてのまじりて
 のまじりてのまじりてのまじりてのまじりてのまじりてのまじりて

りて候ありあり
同^メあやこハ
妻^{メラト}夫^ハ
人^ハ

[illegible]

一、
二、
三、

我々父子とて一徳に親ありて家恩
 ありてに己ありてありてとて己を
 人

[illegible]

石やうのふた二つをア一
三子
 うみちを声のみ名あはいのて七
三子

三ヶ月 ミカツキ 一ツ他の季に二ツころ月

老翁の妻、娘を山姥にあはせしむ。三月
ツキ
三月月　おとといのおちにあふに
四月の子をうけてゐる。
^{三ノ}五　おちあり入るとよも日は
つ名あやしの旗より

月の形勢の動向が京府都上と天下京国都府京平

おとろて
五十一
就乃都
城をなすこと
月のやこ

月より
去る
南都
と知る
九字
九字

都
 大正七年四月五日
 大正七年四月五日

卷四十二

[illegible]

に^ウ_一ふ
人々はあつた
却く
是の却くに状文門戸と

にふ^ウ
人々
却く
地の却くに状文門戸と

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of names. The text is written on a single page with a vertical margin on the right. The script is dense and flowing, with many characters and symbols. There are some larger, more prominent characters that appear to be section markers or titles. The overall style is characteristic of traditional Chinese calligraphy.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or musical score from the previous page. The text is written on a single page with a vertical margin on the right. The script is dense and flowing, with many characters and symbols. There are some larger, more prominent characters that appear to be section markers or titles. The overall style is characteristic of traditional Chinese calligraphy.

雲屋セキヤ雲の戸セキ
 居イ西ニ二ニ白ハクきく園エン子コ
 さんさんくくけけててききくくれれ
 せせくく
 かせかせりりうう
 ととせせくくきき

方子一

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column, flowing from top to bottom. It includes various characters, some of which appear to be stylized or abbreviated. There are several large, bold characters that stand out, possibly indicating section breaks or important terms. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column, flowing from top to bottom. It includes various characters, some of which appear to be stylized or abbreviated. There are several large, bold characters that stand out, possibly indicating section breaks or important terms. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

二五ノ名
の例又三ト

二つをみしす
又二つをみしす

何とぞ人のまゝに
字のふりたるまゝに

まきこ二白まん
けそくしん

とふ系あり
く駱
石ハ
をうてひつて

とふと
はるの
おのつ
とふに

不ハアモニ
垂ルおろふ

うきよな
しる名

[illegible]

此外に多くの詞をあると云ふ

に一隅^{クウ}とありまゝく二隅^{クウ}減^シる乃^{コト}に

夢江の毛有^ア絲^イ明^シ心^コ居士^シ 長頭丸

の程に松を立圃を了るを

倍ハ
く
万マン分ブンと誌シ
一イチ竹チク田テン後ゴ子コ

乃好士之規矩也
乃漏脱乃達

答と毛西タ一平ふんナニに何ふあや子

みりあるに請ふ系の人交を

漢和漢撮要

漢詩家に以聯句と稱するは連歌の二なり

付^キ美^ミの^ニ恥^ハ白^ハく^ハ付^ルる^ハや^ハや^ハ誂^ハ諸^ハ小^ハ並^{ナラヒ}

此乃我々之爲に成るる事なり一月
 之内に詩一首を道に成るる事なり
 此乃我々之爲に成るる事なり一月
 之内に詩一首を道に成るる事なり
 此乃我々之爲に成るる事なり一月
 之内に詩一首を道に成るる事なり
 此乃我々之爲に成るる事なり一月
 之内に詩一首を道に成るる事なり
 此乃我々之爲に成るる事なり一月
 之内に詩一首を道に成るる事なり

乃國に都の目のがはぬ事なり血と
 盟を成るる事なり王化の功なり
 乃國に都の目のがはぬ事なり血と
 盟を成るる事なり王化の功なり
 乃國に都の目のがはぬ事なり血と
 盟を成るる事なり王化の功なり
 乃國に都の目のがはぬ事なり血と
 盟を成るる事なり王化の功なり
 乃國に都の目のがはぬ事なり血と
 盟を成るる事なり王化の功なり
 乃國に都の目のがはぬ事なり血と
 盟を成るる事なり王化の功なり
 乃國に都の目のがはぬ事なり血と
 盟を成るる事なり王化の功なり
 乃國に都の目のがはぬ事なり血と
 盟を成るる事なり王化の功なり

声七陽一東先仙陽唐在比平

也待り枕中一か下の

一かの通句と

和流一和の方

之縁後

之是和の教句

之

寛永十五年九月廿五日御會

和漢

之月夜乃殊此

前園白

露息御砌

虫吟詩有

雁断信無

心や

松乃

年中

暮村江

の如く

て乃に對一

傳る圖のしく也ナニハ御劬北台とある編の下のと
と入句にや一あるとと通句とよりにつくる北台の字灰哈の句
ア灰灰哈おつりあるとと通句の字廻の字ア灰哈の句中の字と
余いられ名跡乃うに對あるをくするに他
カニ淨和の時八句わわワカニ和淨の時八句わわカニ
 おもて八句の内朱引シユヒキの句とく
東坡山谷杜后人名ニシメウ龜門雲谷トコロのナ用乾德年号
子春賈誼娥媚ホノ史記周礼シヨ景祐ホノ集賢司馬大
白雪の調陽篇の名シ記周礼シヨ書乃名ナ集賢司馬大
雲の曲なや乃官名これと朱引シユヒキとくなり
サシ百韻乃内淨ウチカニみするわわワみするとく
ハナ花は本の内淨ウチカニに二句わわワ二句する

ユキ月秋和淨ワカニをもにせうらに又句つたるも
スレハあかとの一花又句乃物ワカニを和淨ワカニつたるも
スかうらに二句とく一花一方ウチにみするも又
フくくく此外サ吳名ハはゆるタラヒのもののわわ
テわわわわそれと一花二句のわわソウハウ雙方とく
 一句つたる
サリ又句とく二句乃ものわわサリ龍字サシあまんた
 つくわわサリもといひの字乃わわサリ唐耕清のわわ
唐の句にあら淨和サリもといひの字乃わわサリ唐耕清のわわ
えれもユクといひ唐の句にあらサリもといひの字乃わわサリ唐耕清のわわ
 けやわわそのわわサリ七句外の字わわサリ二乃

うううううううううう

格句和句ともに五句と限りやん 格句のあひあひ

わいゆるん テウチ 終る終る 文く優く 一先ハツと

うん他西とくく

對句に多くの品あり色對 丹青と対れ 數對 三

に一万色對 仙と物 鳥翼と 同對 山野と 異類對

と対れ 馬蹄や 同對 江海と 異類對 雪と氷

と対れ 月系と 音對 男と 義對 名と風

二句對 隔對句 中對等乃名ありやん 天と地と大と小と

と 有とをとの 一合掌對とあまの ツケユキ

大他乳坤や レコウ 無賊と レヨク 無憂と 虚押と

對句

通句のあひやうあり 入韻の字は乃

歌や 氏用む 白字とある 教りつ

と字あり 例と 用ひく 一 多 二 三 四 五 六 七 八 九 十

と二と通に支脂之や微と通 多 魚と 虞 支

通に佳字と 多 文 信 元 端 通 一 字 植

を刪 山 通 一 又 叢 凡 と 多 有 一 家 に

其 一 侵 蕤 一 庚 に 通 と や 知 一

入韻字習畧

車 いぐり 凡 ことごと 空 あふ 紅 べに
公 あやめ 机 き 相 あひ 中 なかつ 隔 へり 同 おな
さう さう 考 かう 深 ふか 宮 みや
枕 まくら 裏 うら 曉 あけ 停 とど 戎 えい
工 く 聰 そう 出 で 攻 こう 切 き 勝 しょう
美 み 種 しゅ 苑 えん 充 ちゅう 紅 こう
忽 くつ 融 ゆう 宗 そう
隆 りゅう 宗 そう

融 ゆう 衷 ちゅう 汎 はん
沖 ちゅう 終 しゅう 伺 かい
統 ちゅう

冬 ふゆ 容 よう 松 しょう 滿 まん 夜 よ 流 りゅう

攻 こう 邦 ほう 龍 りゅう 宗 そう 客 きやく

第 だい 碓 すい 碓 すい 碓 すい 碓 すい

壽 じう 紅 こう 衛 ゑい 膚 ふ 子 こ 手 て

後 ご 任 にん 後 ご 任 にん 後 ご 任 にん

手 て 手 て 手 て 手 て 手 て

さうやう

江

元所見

窓を眺むに物もなかり

支

時とて

世に昔の世に今に

枝を葉に葉を花に花を果に

後を先に通つて行く

舟を岸に寄せては

地を基にして

尼を師にして

山を郭にして

天を侯にして

地を侯にして

支を侯にして

葉を侯にして

郭を侯にして

樹を侯にして

萬物を侯にして

千物を侯にして

百物を侯にして

十物を侯にして

一物を侯にして

効きう 須す 需きう 人にん

飲いん 物ぶつ 殊しゆ 甫ふ 晏えん

茶ち 蔬そ 芻しう 糶りう 飢き

灰かい 臺たい 均くん 基き 夜や 基き 是し 基き 隈かい

店てん 堽たい 魁かい 番ばん 台たい 媒ばい

来らい 孫そん 顔がん 衣い 櫛し

来らい 比ひ 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

来らい 来らい 来らい 来らい 来らい 来らい

多 まさ 呻 うめ 仁 に 能 のう 仁 に 痛 いた

腰 こし 郭 かく 中 ちゆう 増 ぞう

元原 もとがはら 源 みなもと 聖 せい 邪 よこしま 元 もと

昏 くろ 昏 くろ 邪 よこしま 邪 よこしま 邪 よこしま

孫 そん 孫 そん 孫 そん 孫 そん 孫 そん

天孫 あまみこと 孫 そん 孫 そん 孫 そん 孫 そん

安 やす 安 やす 安 やす 安 やす 安 やす

小端 こはた 端 はた 端 はた 端 はた 端 はた

大端 おほはた 大端 おほはた 大端 おほはた 大端 おほはた 大端 おほはた

安 やす 安 やす 安 やす 安 やす 安 やす

安 やす 安 やす 安 やす 安 やす 安 やす

安 やす 安 やす 安 やす 安 やす 安 やす

安 やす 安 やす 安 やす 安 やす 安 やす

安 やす 安 やす 安 やす 安 やす 安 やす

安 やす 安 やす 安 やす 安 やす 安 やす

安 やす 安 やす 安 やす 安 やす 安 やす

元 もと 元 もと 元 もと 元 もと 元 もと

元 もと 元 もと 元 もと 元 もと 元 もと

元 もと 元 もと 元 もと 元 もと 元 もと

元 もと 元 もと 元 もと 元 もと 元 もと

摩あさ 奇き 摩ま 和わ

禾こ 子こ 沙さ 海かい 葦あし 穢け

柯か 絛けい 瓦か 珂か 縞こう

弋ぎ 葦あし

麻あさ 番ばん 家け 霰せん 巴ぱ

沙さ 縞こう 色いろ 縞こう 縞こう

父ふ 物もの 櫛し 地ち 父ふ

漁い 跡あと 了りょう 瑕け 好こう

つつ 彗すい 夸くわ 彗すい 咳かい 瓜か

華か 花か 車くるま

陽やう 陰いん 陽やう 陰いん 陽やう 陰いん

方ほう 方ほう 方ほう 方ほう 方ほう

何なに 方ほう 何なに 方ほう 何なに 方ほう

光くわう 光くわう 光くわう 光くわう 光くわう

芳ほう 芳ほう 芳ほう 芳ほう 芳ほう

芳ほう 芳ほう 芳ほう 芳ほう 芳ほう

芳ほう 芳ほう 芳ほう 芳ほう 芳ほう

芳ほう 芳ほう 芳ほう 芳ほう 芳ほう

乃聯句とあるハ誹諧ハ一ノ葉書ハ

假名ホにナシ一変有ハ

連綿字ハ上截一字の上と切れしを下截一字の下と切れしを

偏偏ハ左と右とをいふ偏偏ハ左と右とをいふ偏偏ハ左と右とをいふ

二ノ物ハ別の物と二つをいふ連綿ハ二つをいふ

底返リハ納涼をいふホのナリ点付

章句ハ別名ナリ対句ハ

二ノ物ハ別の物と二つをいふ連綿ハ二つをいふ

底返リハ納涼をいふホのナリ点付

一ノ葉ハ二ノ葉ハ對ハ一ノ葉ハ二ノ葉ハ對
に對ハ一ノ葉ハ二ノ葉ハ對
一ノ葉ハ二ノ葉ハ對
一ノ葉ハ二ノ葉ハ對

金衣 露青 芳竹 秋花 婕妤 葉扇 孟嘉
金衣 露青 芳竹 秋花 婕妤 葉扇 孟嘉
金衣 露青 芳竹 秋花 婕妤 葉扇 孟嘉
金衣 露青 芳竹 秋花 婕妤 葉扇 孟嘉

探梅

春信

守歳

凍柳

凍柳

凍蝶

勅

つれもなき人しはれ

繁星

迷懐

暗香

霜

霜

梅

侯

伯人

行友

梅

梅

梅

梅

樓厩

桃李

桃李

桃李

桃李

桃李

得溝

桃李

桃李

桃李

桃李

桃李

岫

桃李

桃李

桃李

桃李

桃李

一隅

桃李

桃李

桃李

桃李

桃李

と

桃李

桃李

桃李

桃李

桃李

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

傍歌落歌の辨

同 謝 家 子 之 禮 帖

張氏

乞とらんく彼とあまふ

くしと指繩いあのものか言水

彼と交とをとあまふ

欲言あまこのむーよあも思ひて

了るーとあ

期日やこ粒うーとあけあは

成とるあまふ

文西も筆の真かや世のち

んううとせとあ

縁ふむとあやふり杜あ夏月

くゆとあ

あつと目やうらとるあ

強者うに居る強う勇と欺と恃たやとと

争とむれと挑け矛とあてととにうとる

服うに虎とも冠あもよくあつとる

いさやひあるあ

何奴と野分にあまふとる

不戦と勝とる方すふ会とる二人

の敵ふあつとるの奴や表ふ韓信と勝とく

世の雷と云ふに云く

家の内なる文の下
大に鈴音の聲を世に傳ふ故に文
字の如く言句に示さるる
向上一張作廢生の如く
此の處の如く
知恩院の一重櫓の如く
孝田家の如く
文不意なる如く
此の如く

あはれに云く筆姫 路水

井の如く懐童の如く
彼の家と見ゆ波派の如く
煙草の如く
小に云く形の如く
祈の如く
若くは如く
主の如く
連歌の如く
此の如く

先^ミや吾^ワう道^{ミチ}乃^ナ奥^{アウ}義^ギハ怪^ケ言^{ゴン}狂^{キヤウ}言^{ゴン}れあさくを
 に似^ニれそを内^{ナイ}秘^ヒ菩^ホ薩^{サツ}の救^ク世^セを^{キヤウ}知^ウと^{ツタ}傳^{デン}へと
 求^クむ^{セン}いの^{サシ}異^{ウル}因^{ナカ}と^{タチ}の^チ多^チ媒^チを^チ乃^チ中^チ然^チる^チ
 一^セ世^ヨに^{メイ}明^{テツ}哲^{シユ}の^{シユ}授^{ハシ}受^{ハシ}も^{コカイ}傳^{コカイ}へ^{コカイ}と^{コカイ}あて^{コカイ}又^{コカイ}戒^{コカイ}
 十^セ善^セの^{ツツ}あて^{ツツ}に^{ツツ}勅^{ツツ}り^{ツツ}と^{ツツ}せ^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}他^タの^タ機^{クニ}板^シと^シ
 笑^{ワラ}ひて自^ジ家^カ乃^ソ屎^チ楸^チと^チ尿^チと^チ保^ホや^ホに^ホい^ホわ^ホと^ホさ^ホう
 さ^スふ^ス一^コみ^ユ有^ユふ^ユち^ユう^ユ紙^{ツク}を^{ツク}一^タ短^リき^リと^リと^リう^リ
 随^{スイ}ち^{フシ}の^キ因^クと^ウ句^シの^シと^シに^シ誌^シ一^シと^シ和^シ学^{カク}を^{トウ}あ^{モウ}と^{モウ}家^{モウ}
 先^ミ耳^ミと^ミや^ミと^ミあ^ミ一^ミり^ミん^ミと^ミく^ミあ^ミか^ミう^ミと^ミ

和歌の詞寄

あうのさ

月といふんとその相あり月の出るちい
そのいろあうくやうとていふと

と八日
の光

くさくさといふ斜照とすはうも斜陽
といふといふあうい月使ともあり

あみのうさ
七月八日の
月とす

あまのゆみさう

とていふと
とていふと

と八日
の光

あまの月といふ

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

あまの月

十六日といふといふといふといふ
あまの月といふといふ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, with some lines starting with a large, ornate initial. The paper shows signs of aging, including discoloration and some staining.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, with some lines starting with a large, ornate initial. The paper shows signs of aging, including discoloration and some staining.

2000

[illegible]

Am 2. April 1882

一松葉山

[illegible]

Handwritten text in Urdu script, likely a signature or name, written in dark ink on aged paper.

[illegible]

27/12/1900

L'Esprit de la Nation - 1789

一 陸梅 なるを なる 溝の字 へ ぬき ぬき

毛子石 十力、井 己作、石痛のち、中絶、後、又、新、陽

Handwritten signature: *John H. ...*

一 四 五 六

一 野亭形店也此乃二五三號之店也

There is

一時之盛也

^{アキ}秋 ^{モミチ}の ^{モト}木 ^ミの ^ミ木

卷一

此後之世

てハ等もいく...
く此甲子とく...
く此甲子とく...

御溝水頭白梅園主鷺水

元禄十一年戌寅二月廿廿日



○ 田中汲古堂 中西華文軒 誂書目録

誂諧新式大成 鷺水 二冊 同 新板 日作 二冊

同 わくか替掃 千梅 三冊 誂諧新式の古実本歴を要く
誂一改ある書をあり

同 鷹の白尾 青史 二冊 同新式の古嫌本字新しその外
古事本と要細はふし一なる書をあり

同 系きり歯 春耕 四冊 同わくか替掃の誤りなど直しく改め
古実本歴を考へて一なる書をあり

同 焼おほ根 梅人 麟那 一冊 同系きり歯の返答の書をあり別
本梅門人友人の作なり

己上誂諧新式又郊の書之

誂林良材 鷺水 三冊 誂諧をとり云 鬼貫 二冊

誂諧おぬ巻 竹亭 二冊 同番通童 和及 一冊
小本

同 江戸板 日作 二冊 同子守屑 日作 一冊



同 孫逸 大石 一冊

同 曉山集 方山 二冊 俳諧神妙 其 一冊

同 寺々盛 風狀 一冊 同 古良百句 經人集 貳冊

同 近道大成 飛良 二冊 同 修品殿引 香堂 一冊

同 古世垣大成 警 二冊 同 手松明 風狀 一冊

同 花火大全 立圃 一冊 同 初学抄 徳元 一冊

安永又 丙申年 二月 吉辰

建仁寺町 旧多奈下止下同

系所 書林 寺町通 又多奈上止町 中 為 卯 舊 合 刻

田中 衣 舊



